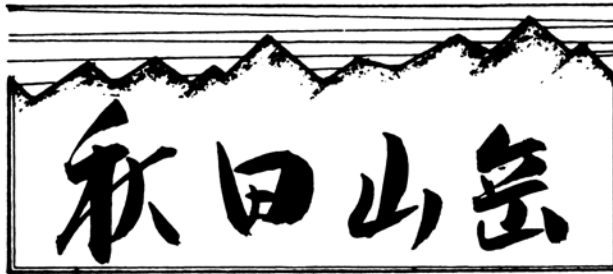


2024



令和6年5月 発行

No. 130

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市外旭川八幡田  
2-1-9 小松方

TEL・018-868-5445

発行 秋田支部  
編集 鈴木裕子

## 令和6年度支部総会開催

### 佐藤和志支部長を再任、 支部設立六十五周年記念事業等を決定

日本山岳会秋田支部の令和六年  
度通常総会は四月二十日(土)午  
前十一時から、秋田市大町の協働  
大町ビル六階会議室で開催された。  
会員四十四名中、出席者十六名、  
委任状提出二十三名。鎌田副支  
長の司会で議事を進行した。

佐藤支部長はいさつで「高い  
山だけでなく、低い山の楽しみも  
ある。これからは低山であっても  
山を楽しむという方向に世の中が  
変わっていくと考えている。こう  
した流れの中、山の会として発言  
力を増すには、組織としてきちん  
と活動し、声を上げることが大切  
だ」と述べた。

続いて佐々木長秀会員を議長に  
指名して、案件の審議が行われた。  
案件一「令和五年度事業報告」  
を鎌田副支部長が説明。

支部総会は四月十五日、協働大  
町ビルで開催。役員会は一回、事  
務局会議は八回開いた。

支部山行は、春が大館市の秋葉  
山へ、秋は八郎潟町の高岳山へ登  
った後、浦城跡を散策した。  
太平山山開き市民登山は集中豪  
雨のため中止となった。

東北・北海道地区集会は青森支  
部の担当で階上岳に登った。

全国支部懇談会は群馬支部の担  
当で谷川岳一ノ倉展望トレッキン  
グを行った。

日本山岳会創立一二〇周年記念  
事業「全国山岳古道調査」は秋田  
支部が「秋田街道・国見峠」、「沢  
内街道・白木峠」、「鳥海山」を担当。  
当初計画にあった「矢島街道」は  
除外された。白木峠については調  
査が終わって本会に報告済みで、  
鳥海山については担当に報告を依  
頼。秋田街道についてはまとめを  
岩手支部が行う旨を報告した。

また、年次晩餐会は東京の京王  
プラザホテルで開かれ参加した。  
公益的の事業として、太平山前岳  
歩道整備は「まんならめ」協の前  
岳登山口から二手ノ又登山口まで  
実施した。

支部合同会議、山岳古道調査会  
議、支部・委員会等への説明会は  
オンライン会議で行われた。  
会員確認は新入会員一名、退会  
会員五名(うち一人は死亡による)  
だった。

案件二「令和五年度決算報告」

については後藤会計担当が説明。  
大橋会計監事が三月三十一日に行  
われた会計監査の結果、関係書類  
が適切に処理されていたことを報  
告。令和五年度事業報告及び決算  
が承認された。



案件三「令和六年度事業計画案」  
は鎌田副支部長が説明した。

役員会は年一―三回を予定して  
おり、事務局会議は随時行う。

六年度は支部設立六十五周年記  
念の年に当たり、祝賀懇親会、記  
念山行、六十五座ラリー等を行う。

山行は春秋の支部山行、山の日  
山行のほか、新たに有志山行「ゆ  
つくり山行」を計画した。

山の日山行の実施場所は秋田駒  
ヶ岳とし、八合目バス停留所付近  
で、登山者に「登山安全ハンドブ

ックを配布することを計画している。

スタートした六十五座ラリーについては担当の小松芳美会員が説明。登山日、山名などの登山情報について、山頂等の記録写真を添えて報告するよう依頼した。

公益的事業としては、太平山歩道整備、案内板等の設置を計画している。

東北・北海道地区集会は福島支部の担当。七月に猫魔ヶ岳登山、裏磐梯五色沼散策を予定している。全国支部懇談会は神奈川支部担当で五月に三浦アルプス登山、鎌倉大仏ハイキングを計画する。

会報の発行は四回の予定。山岳古道調査（令和七年度まで継続）については、秋田支部の担当で未報告の鳥海山は引き続き完成に努め、白木峠については調査を継続する。

案件四「令和六年度予算」は、ほぼ前年度と同水準としたことを後藤会計担当が説明。令和六年度の事業計画と併せて承認された。記念集合写真撮影後、十六名が参加して懇親会を開いた。

高橋守会員の発声で乾杯、今野昌雄、高橋吉一、堀井弘の各会員の近況報告に続いて懇談、午後二時半、高橋雄悦会員の中締めでお開きとなった。

出席者

- 佐藤和志 今野昌雄
- 高橋守 鎌田倫夫
- 堀井弘 佐藤博
- 若月寿 大橋忠雄
- 柴田勸 佐々木長秀
- 佐藤英實 後藤浩二
- 三浦昭男 高橋吉一
- 小松芳美 高橋雄悦

二期目就任に当たって

支部長 佐藤 和志

日本山岳会秋田支部長に再度就任することになり、私で大丈夫なのかと自信が無い中での二年を振り返り反省しております。しかし会員皆様の期待に沿うべく前向きに進むことが私のこれからの二年だと思っております。

日本の山岳界では、人工ボードでのクライミングがオリンピック種目になるなど注目を集めています。登山競技が行われていた国民体育大会も今年から国民スポーツ大会と名称変更されるなど話題を集めております。

環境省でも令和三十年に向けて全国の三〇％で公園に管理の網を掛けないと日本の自然が守れないとの観点から、国立・国定公園の再編を行うとの話も出ています。私どもも十和田八幡平国立公園を十和田八甲田と八幡平に別々にするよう話題提起しています。世界

的な気候温暖化の中で山に接する私たちもいろいろな現実面に直面しておりますが、山に魅せられた私たちは現実を受け入れ、山に癒され、楽しむことに向かうことが山屋のだいご味かと思えます。遠くの山でもなく、高い山でもなく、自然のたたずまいに入れてもらうという謙虚な気持ちで山を愛することができれば、と思っております。

令和六年度秋田支部役員名簿

- 名誉顧問 長岩嘉悦
- 顧問 佐々木民秀 今野昌雄
- 鈴木裕子 堀井弘
- 支部長 佐藤和志
- 副支部長 鎌田倫夫
- 事務局長 小松芳美
- 会計担当 後藤浩二
- 委員 佐藤助雄 歩仁内昌樹
- 三浦昭男 高橋吉一
- 鈴木加代子 畠山靖
- 高橋雄悦
- 大橋忠雄 佐々木長秀

太平山遭難救助協力員を登録

中央地区山岳協議会の太平山遭難救助協力員（令和六・七年度）として次の支部会員を登録した。

秋田支部登録者

- 鎌田倫夫 今野昌雄 小松芳美
- 堀井弘 三浦眞六 歩仁内昌樹
- 高橋雄悦
- 他団体から登録の支部関係者
- 佐々木民秀 若月寿
- 佐藤博 大橋忠雄

○会計監査

三月三十一日（日）、午前十時から、秋田市北部市民センター「キタスカ」二階会議室で開催。令和六年度会計監査を実施。関係書類が適正に処理されており、正確であると承認された。

出席者

- 会計監事 柴田勸 大橋忠雄
- 会計担当 後藤浩二
- 副支部長 鎌田倫夫

会員の動静

- 退会 佐藤安弘（令和六年二月）
- 退会 今野秀穂（令和六年二月）
- 退会 熊谷光子（令和六年三月）
- 退会 川口廣志（令和六年三月）
- 退会 沼田敏明（令和六年三月）

役員会を開催

二月八日(木)午後一時から、秋田市北部市民センター会議室で開催した。

令和六年度の支部総会に提案する六年度事業の確認と役員改選について協議。

六年度は支部設立六十五周年に当たり、支部内での祝賀懇親会、記念山行、六十五座ラリー等が提案された。

また、山の会にふさわしく山行回数の増を狙い、ゆつくり山行、有志山行が新たに提案された。

役員改選については、諸般の事情により、三浦眞六、佐藤安弘、安藤金栄、熊谷光子の各委員と、柴田監査から退任の申し出があり了承。新たに、小松芳美、畠山靖、高橋雄悦の各会員を委員に推薦、佐々木長秀会員を監事に推薦した。委員の役割分担等は、総会後に協議することにした。

総会の日時は四月二十日(土)午前十一時から協働大町ビルで行うことにし、三時五十分終了した。

出席者

佐藤和志 鈴木裕子  
鎌田倫夫 柴田勸  
後藤浩二 三浦昭男  
小松芳美 高橋雄悦

オンライン会議報告

令和六年度事業計画

本会会長ヒアリング

開催日 二月五日(月)午後八時十分から。

本会出席者 橋本会長 長島常務理事 猿渡理事

一月二十五日に本会に提出した「令和六年度事業計画」に基づく会長ヒアリングがオンライン会議で行われた。

秋田支部の説明

支部設立六十五周年祝賀懇親会等は支部内の行事として行う。支部の問題点としては、高齢化等に伴う山行回数の減少であり、六年度に新たに計画したゆつくり山行、有志山行等計画した十二回の山行行事を実施したい。会員増加方策は、山行等での声掛けなど。今後はホームページ、インスタグラムなどを活用して発信力を強化すべく模索している。

本会への要望

・新入会員を獲得しやすいうように入会金等の減額をぜひ実現していただきたい。

出席者

後藤浩二 小松芳美  
高橋雄悦

山岳古道調査状況について

「白木峠」の調査事項を本会古道調査担当班に提出報告した。詳細は以下の通り、

- 1 報告日 二月三日(土)
- 2 報告先 日本山岳会「山岳古道調査プロジェクトチーム」
- 3 対象古道 沢内街道・白木峠
- 4 報告の要点

(1) 原稿の内容 本会で示したテンプレートに従い、①白木峠の位置関係、歴史的背景、役目など②久保田藩と盛岡藩を結んだ峠道としてのコース案内③深掘りスポット、おすすめスポット、古道にまつわる話などの紹介④参考文献一を記載した。

(2) 地図と写真撮影場所  
①地図五枚に撮影ポイントを記した②十三枚の写真キャプションを作成し、地点ごとに詳細を説明した。(小松芳美)

山岳古道調査オンライン会議

開催日 二月五日(月)、三月四日(月)、四月三日(水)

矢島街道が正式に調査対象古道から抜けた。熊野古道山行に参加する方に、手ぬぐいなどを送る予定。報告された資料をもとにホームページ用に修正するが、一件当

たり四日ほど要する。今後、ホームページに掲載予定である。

報告した資料を修正する場合は、赤字として現物を郵送してもらえると編集しやすい。

百二十古道中、四十古道の報告あり。できるだけ早めに報告してもらえるとありがたい。百二十古道以外にも魅力的なコースがあり、会員向けに「裏情報」として紹介することも考えている。

出席者

後藤浩二 三浦昭男  
小松芳美 高橋雄悦

支部連絡会議参加報告

1 開催日 三月二十八日

2 開催場所 オンライン

3 出席者 本部・橋本会長ほか、秋田支部・小松芳美、高橋雄悦

4 本部報告の要点は次の通り。

- ・今後、入会金は二万円から一万円に減額予定。
- ・準会員の期間を二年から一年に短縮予定。

・今後登山教室を月一回程度オンラインと実地で開催予定。一回目は、四月十九日にZoomを使い本会会議室で平川陽一郎氏が「登山の基礎と装備について」と題して講演した。

・出張費などの補助を打ち切る。(小松芳美)

有志山行の報告

七座山 鎌田倫夫

一月二十日(土)

この日は好天に恵まれ、旧二ツ井町にある七座山へ登った。

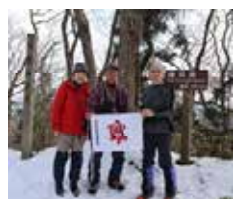
予想以上の積雪で登り口の天神荘跡地手前まで約十分の路上脇に駐車し、九時十七分出発。

法華ノ岩屋を通り主峰の権現座(二八七・六m)に着いたのは十一時であった。各ピークには新しい標柱がある。無風であったが気温は低くダウンやヤッケを羽織る稜線を烏帽子座経由して展望台のある箕座で眺望を楽しみ七つ目のピーク松座に到着した。

ここには休憩用のベンチが二基設置してあり休憩する。

ここから小松会員の案内で少し戻り、稜線ルートと米代川沿いの車道との中腹ルートをとる。数箇所倒木があり注意書きの案内板がある。山全体に杉の巨木があるが、この周辺は特に見事な杉の巨木が多い。雪解けの季節には花畑になるようなので是非その頃も鑑賞に訪れたい。

積雪で確認しづらいが道幅は稜線より広いようである。軽めのラッセルに汗を流しながら、十四時十八分無事登山口に到着した。



観音森

小松芳美

参加者

小松芳美

鎌田倫夫

会員外一名

権現座山頂で

二月十七日(土)  
「観音森(三四三m)」という名の山は県内に四座あり、今回は最も低い由利本荘市岩城と秋田市雄和との境に鎮座する山へと向かった。

山の選定は、鎌田副支部長の「秋田市から近く、残雪の観音森を紹介したい」との思いから。地図作成と支部会員へ案内文をメールで送る役を小松が担った。

岩城道川字桜沢の林道交差点付近に車両を止め、九時十五分出発。

今年は暖冬で積雪が少なく、思い描いた「残雪の林道を登る」は叶わなかったが、頂上付近には二十cmほどの雪があり、なんとか足跡を残すことができた。

林道付近にはバツケが芽を出し始めるなど、春の訪れを感じながら、たあいもない話をしながらゆつくりと頂上を目指した。

頂上着十一時。無事に到着し、観音森三吉神社にお参りする。ここは地元の方が整備しているようで、道中のお地藏様なども綺麗にされていた。

お待ちかねのランチタイムでは、春の陽気に思わず鼻歌がでるなどいつまでも、ここで休んでいた、と思うほどリラックスできた。

今回訪れた岩城の観音森は秋田市から近く、立派な林道が整備され安全であることから、次回は雪上をスキーで訪れたいと思ったほど親近感を持った。

登山口着十三時五十分。距離一〇・三km。



参加者  
鎌田倫夫  
小松芳美  
高橋雄悦  
会員外六名  
山頂三吉神社前で

投稿のお願い

有志山行、個人山行、想い出の山行、山情報、その他なんでも可です。会員の活動を紹介したので、投稿をお願いします。

会務報告

事務局会議

○二月五日(金)午後一時から、秋田市泉コミセンで開催。

・会報一二九号、全国支部懇談会案内等発送。

・役員会に提案する案件について○三月三十一日(日)午後一時から、秋田市泉コミセンで開催。

・総会に提案する議案等の確認及び発送。

出席者 鎌田倫夫 後藤浩二

三浦昭男 小松芳美  
高橋雄悦

編集後記

雪の少なかった今冬、雪を踏みながらの山行を楽しんだ会員からの投稿があった。平均年齢の高い(七七・三才)秋田支部の山行回数減を気にしていたが、活動状況を知りうれしい。会員の山行状況を報告しあい、お互いの励みになつてほしいものです。

総会で新役員が任命され、新たな役務分担での活動が始まる。

会報編集は次号から高橋雄悦委員が担当する。支部のこれまでの伝統も引き継ぎながらも新たな視点、観点からの編集が期待される。

「会報は支部の顔である」と話されてきた初代編集者の故保坂隆司名誉顧問を思い出す。(鈴木裕子)